

【V】 バラ科を育てる

バラ科の植物には美しい花を咲かせるものが多い。梅、桜、桃、梨、李、林檎、海棠、花梨、桜桃、木瓜、そしてご本家バラなど、どれもこれも魅力あふれるものばかりである。しかしバラ科の特徴として、病虫害には極めて弱いという欠点を持っている。かりに自宅をバラ園にしようなんて、壮大な夢を抱いてしまったら、これは消毒との戦いである。いい花を咲かせようと思ったら、少なくとも4月から7月までの16週間に、10~16回は消毒に明け暮れなければならない。そればかりかバラは花の中でも特に多肥を好み、しかも困ったことには、いつも化成肥料というわけにはゆかない。化成肥料ばかり与えていると、キャンサーとかネマトダなどに、おかされる確立が高くなってしまうからである。それでもやはりバラに魅力があることは、誰しものが認めざるを得ない。花が美しく、花色も花形も変化に富んでおり、香りがあって、切り花としても申し分なく、温帯の自然によく適応し、春秋2回も花を咲かせてくれる植物は、他にはありえないからである。

梅や桜や桃はバラに比べればずっと手はかからない。しかもバラと違って時には人間に果実という収穫をもたらしてくれる。それゆえに人間との関わりは、バラよりもいっそう長くいっそう深い。かのアダムとイブが口にしたのも林檎であってバラではなかった。文学を始めとする芸術の分野においても、このバラ科の植物を切り離すことはできない。梅は万葉集の中で最も多く詠まれている素材の一つであり、桜はチェーホフの桜の園をあげるまでもなく、左近の桜として1000年もの長きに亘って、その地位を不動のものにしている。さらにお隣の中国に目を向ければ、杜甫は「時に感じては花にも涙を濺ぎ、別れを恨んでは鳥にも心を驚かす・・・」と桃の花を見て嘆き、白楽天は「梨花一枝春帯雨」と詠った。さらにバラ科の植物は用材としての価値にも見るべきものが多い。花梨の家具(家具にされるのはマメ科のカリンであることが多い)、桜の銘木としての価値、そしてローズウッド。あげて行けばきりが無い。とにかかにもバラ科の植物は、人間にはなくてはならない存在で、この関係は地球上にともに生存している限り、変わることはないだろう。

※花柄と葉柄＝花柄は萼の下にあって、花を支えている部分の名称である。花柄が途中でいくつにも分かれ、花もその数だけある場合には、分かれた部分を小花更(ショウカコウ)と呼んでいる。一方、葉柄は葉身と茎を結ぶ部分で、茎との付け根の部分には托葉(タクヨウ)がついている。托葉は一對ついていることが多く、新芽のうち葉身を保護しているが、葉の成長とともに落ちてしまうことが多い。植物の花や葉の構造や名称等に関しては[植物の用語集図説]を参照してください。



満開のウメを背景に乗馬なんてどこか優雅な春である(埼玉県嵐山町)。

この項に記されている植物のリスト

【V】バラ科を育てる

01-05-00-1

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1) ウメ=梅 | 01-05-01-1 |
| 2) モモ=桃 | 01-05-02-1 |
| 3) アンズ=杏 | 01-05-03-1 |
| 4) カイドウ=海棠 | 01-05-04-1 |
| 5) カリンとマルメロ=花梨と榲桲 | 01-05-05-1 |
| 6) リンゴ=林檎 | 01-05-06-1 |
| 7) スモモ=李 | 01-05-07-1 |
| 8) ニワウメとニワザクラ=庭梅と庭櫻 | 01-05-08-1 |
| 9) ナシ=梨 | 01-05-09-1 |
| 10) ズミ/コリンゴ/コナシ=桤/棠梨/小林檎 | 01-05-10-1 |
| 11) バラ=薔薇 | 01-05-11-1 |
| 12) バラ園散策-1 | 01-05-12-1 |
| 13) バラ園散策-2 | 01-05-13-1 |
| 14) ノバラ=野薔薇 | 01-05-14-1 |
| 15) ハマナス=浜薔薇 | 01-05-15-1 |
| 16) イチゴ=苺 | 01-05-16-1 |

目次に戻る
